

令和4年度 事業報告

岡山理科大学専門学校



建築と動物そして水生生物のスペシャリストを養成。学生、保護者、学校、地域、関連業界の皆様に支持され、愛される学校を目指します。



令和4年度も前年に引き続きコロナ禍の下で行動が制限された状態での学校運営となりました。しかし、そのような状況下でも、教育課程編成委員会や学校関係者評価委員会を開催し、外部の意見を積極的に取り入れて教育を改善する取り組みを実践することができました。また、退職する教員の補充を適切に進め、教員スタッフの若返りと活性化を図ることもできました。常に学科の魅力を高める努力を続けることによって、5学科全体の入学定員を確保でき、人件費比率も理想的な値を維持することによって健全な財務状況を維持することができました。今後ともより一層社会のニーズ

に対応した質の高い教育を目指していきます。

<重点施策>

1. 業界団体の意見や要望に応え得る人材育成のために、職業人育成に主眼を置き、教育内容の改善を行います。
2. 「職業実践専門課程」を有する学校として、業界団体等が行う技術研修への教員派遣を積極的に進め、教員の資質向上に努めます。
3. より実効性のある教育体制を構築するために、教育組織の改善に取り組みます。
4. 急速に変遷し、グローバル化する社会のニーズを真摯に受け入れ、本校の特徴を生かして柔軟に対応して行きます。
5. 本校のブランディング効果を上げるため、全教職員が協力して学校教育に当たります。

岡山理科大学専門学校 校長 梶浦 文夫

I. 教育について

1. 教育に関する中期目標

中期計画		令和4年度 事業計画	令和4年度 事業報告	評価
(1) 1年次中に「キャリア教育」を体系化する。	①入学直後から職業人意識を養成する「キャリアデザイン」の履修を図る。	D-1 「キャリアデザイン」にて、以前は就職課の教員による授業であったが、令和4年度より各学科教員が担当することになった。目的は仕事を通じて実現したい将来像やそのプロセスを明確化し、自分の能力を活かすためのキャリア形成支援から就職活動支援までを行うことを目指すことであるが、それぞれの学科の個性が出せる授業とする。	各学科の実務経験のある教員が科目を担当することになったため、これまでの全般的な話に加えて、その分野の詳しい話や業界の現状についても説明できるようになり、それぞれの学科らしい科目にすることができた。今後の一層の改善を目指す。	A
	②全学生に「キャリアマナー」の向上を図るとともに、「キャリアデザイン」の履修を体系化する。	D-2 「ビジネスマナー」を学ぶことにより相手に喜んでもらえることが自分の喜びとなる。それが働きがい、やりがいにつながる。そう思える人材になることを目指すために、関係資格であるサービス接客検定の合格率向上につなげる試験対策を強化する。	動物系の学科は学生全体の約半数がサービス接客検定3級を受験していて、合格率が70%程度で全国平均より若干低い。対応科目が前期開講で検定試験が11月であるため、試験対策が必要であるが、まだ実施できていない。	C
(2) 学科毎に職業に直結した専門知識・技術・技能を持った人材育成のために、教育課程編成の再構築を行う。	①職能団体の要請に伴い、カリキュラムを弾力的に編成し、逐次教育内容の見直しを行う。	D-3 ① 年2回の教育課程編成委員会を通して企業から得た情報をもとに、実践的かつ入学生が学びたいと思えるカリキュラムの構築を行う。 ② 社会に出て役立つ資格を少しでも多く取得できるよう、新たな資格試験を検討する。	4学科で年に2回の教育課程編成委員会を実施し、外部委員の意見をいただくことができた。 社会で役立つ新しい資格を検討中である。また、必要に応じて整理することも検討している。	B
	②事業現場の中核を担える人材を養成するために、学生参加型の授業展開を推進する。	D-4 「設計製図」の授業にて、学生に与える課題の一つに学生が参加資格のある一般の公募型の設計コンペに出す作品を課題として採用し、実践的かつ実力を発揮できるような授業展開を行う。	岡山建築設計クラブ主催「ワンデーエクササイズ」設計競技会への参加を続けており、提出作品は高く評価されている。今後さらなる授業の改善を進める。	B

中期計画		令和4年度 事業計画	令和4年度 事業報告	評価
	③多様な校外実習と現場体験により、社会のニーズを理解するとともに研修施設の開拓に努める。	D-5 「古民家再生論」では、倉敷や児島、早島などの街並みや再生現場への見学を行い、今、国内で問題となっている空き家問題の解消策を授業に取り入れる。	倉敷市児島、早島町などへの見学を実施し、空き家問題を授業に取り入れることができた。	A
(3) 建築学科専攻科と動物系総合学科研究科の意義を再考し、人材目標に合ったカリキュラム編成に重点を置く。	①専攻科と研究科はワンランクレベルの高い学科として位置付ける。	D-6 ① 「建築学科専攻科」、「動物系総合学科研究科」の学科のカリキュラムを再度見直す。 ② 地域が要請する授業を編成する。建築学科専攻科では、来年度に向けて地域が抱える問題と課題（人口減少、防災、空き家、福祉の充実）を解決、推進するための地域創生まちづくり活動のマネジメントを行う人材を養成する「まちづくりファシリテーター養成講座」の開催を準備する。	専攻科、研究科の双方でカリキュラムの見直し作業を進めている。 「まちづくりファシリテーター養成講座」の2023年10月からの実施に向けて準備を進めている。	B
(4) 入学者確保のための新たな学費軽減策を検討する。	①学科毎の受験者数に応じて、奨学生枠を付与する。	D-7 ① 入試制度での免除枠の充実を検討する。 ② 学習意欲はあるが、経済的困難により進学が困難な学生の入学枠を検討する。	現在検討を続けている。	C
	②受験者の多い学校との連携を強化する。	D-8 ① 高等学校の研究発表会等に積極的に参加し、指導・助言をする。 ② 学内の卒業研究発表会やシンポジウムに高校生を招く。 ③ 共同でイベント活動を行う。	コロナ禍の影響で、学外での活動を自粛していたため、ほぼ実施できていない。	D
(5) 授業アンケートの完全実施と集計・分析による授業評価を実施。教育の質の高位平準化のための教員研修の促進。	①学習者目線での授業展開を目指し、アンケート結果によって、授業評価を行い、改善策を指導する。	D-9 ① 授業アンケートをWebにて円滑に行えるようにする。学生達にも全科目へ回答協力するよう指導する。 ② それぞれの教員に必要な研修に参加させる。	Webでの授業アンケートを可能にした。一方で、授業中に紙のアンケートを実施する場合に比べて回答率の低下が起こっており、次年度以降なんらかの対策が必要。 各教員にもWebでのアンケート方法を周知させた。	A

中期計画		令和4年度 事業計画	令和4年度 事業報告	評価
(6) 学科毎の目標資格取得率を全校で共有する。	①各種資格取得率を格段に上げる。資格取得困難学生を重点的にサポートする。	D-10 ① 授業の中で、試験日に照準を合わせて練習問題等実施する。 ② 資格の重要性を早い時期に学生にガイダンスを行い、流動的な社会では資格が必要不可欠であることを理解させたうえで資格試験に臨ませる。また、学内での講習会だけでなく、外部の通信教育なども積極的に活用する取組みを行い、学生の学習しやすい環境を整備する。	各学科とも是非取得して欲しい資格、可能なら取得が望ましい資格がある。重要な資格に関しては実施できた。 各学科とも資格取得の重要性を説明するようにしているが、今後なお一層合格率の向上を目指す。	B
(7) 関連企業・団体との連携による教育課程編成。	①職業実践専門課程の認定要件である「教育課程編成委員会」の年2回の開催を以て、関係業界が求める人材養成に努める。	D-11 適切な教育課程編成委員会による委員会を年2回開催する。	職業実践専門課程の認定を受けている4学科全てで年2回実施できた。	A

II. 研究・創作について

1. 研究・創作に関する中期目標

中期計画		令和4年度 事業計画	令和4年度 事業報告	評価
(1) 研究の重点化やブランド力の向上を図る。	①各学科の教育目標と知的・物的資源を各業界の問題解決に提案していく。	D-12 ① トリミング学科では、シニア犬に対するスピードトリミング、膝や腰の弱い立姿の困難な犬に対する美容技術を修得させる。 ② アクアリウム学科では、授業と並行してクマノミ以外の観賞魚の量産・販売を計画する。また関連団体に参加し、国内希少野生動物種に指定されている淡水魚の種の保存のための継代飼育、新たな水槽のろ過システムの研究開発等、環境問題への取組みを行う。	高齢犬、肢の悪い犬のトリミングに対するスピードトリミングの指導と実習を行った。 クマノミ以外の種として、キイロハギの量産に取り組んでいる。また、希少淡水魚の種の保存についても飼育を実施した。	A A

中期計画		令和4年度 事業計画	令和4年度 事業報告	評価
		③ 地域社会の問題点を調査し、問題解決への提案を行う。	今年度は実施できていない。	D
(2) 附帯事業における利潤を追求する。	①各資格取得の専門講座を充実させる。	D-13 ① 各資格取得の為の専門講座を一層充実させる。 ② 建築士対策講座においては、外部からの受講生を多く獲得できるよう、更に魅力的な講座になるよう追及していく。	特に建築学科では、対策講座を外部からも受け入れている。今年度は、在学生、卒業生以外に外部から4名が受講した。今後も継続していく。	A

Ⅲ. 学生支援について

1. 学生支援に関する中期目標

中期計画		令和4年度 事業計画	令和4年度 事業報告	評価
(1) 楽しい学校を先ず学生に印象づけ、欠席や中退を無くす魅力的な学生生活を全校で創る。	①入学生と在校生の交流の場を増やす取り組みを行う。	D-14 ① 学校内で球技大会や学園祭等、学年、学科の枠を超えて協働する。 ② 学友会の充実を図る。 ③ 県内または近県で交流できるイベントを検討する。	球技大会としてボーリングを行い、学生同士の親睦を深めた。学園祭はコロナ禍のため、ミニ学園祭として在学生のみのリモートでの実施となった。学外でのイベントは実施できなかった。	C
(2) キャリア形成支援を行う。	①正課のキャリア教育と正課外のガイダンスや講演の接続を図る。	D-15 ① キャリア教員の数を増員し、実践的で楽しい授業を展開する。 ② 学外から教員を招聘して、学生の更なるアイデアを引き出すヒントとなるような特色のある授業を行う。 ③ 正課外の多様な専門職の講演により感性の充実を図る。	これまで1名の教員が担当していたキャリアデザインを各学科の専門の教員が担当するようになり、学科の目指す職業について詳しく学べるようになった。その他については、コロナ禍のため実施できていない。	B
	②社会で活躍する卒業生の講演を企画する。	D-16 研究発表会等で本校卒業生による特別講演を実施し、更なる学生の学習意欲向上につなげる。	アクアリウム学科では琵琶湖博物館勤務の卒業生による特別講演、愛玩動物看護学科では鳥の診療を行う動物病院に勤務する卒業生の特別講演を実施した。	A

中期計画	令和4年度 事業計画	令和4年度 事業報告	評価	
	③全校一斉の挨拶週間、ゴミ拾い、ボランティアデーを設けることで、学生一人一人にキャリア形成の重要性を認識させる。	D-17 学生のコミュニケーション能力の重要性を認識させるためや活動意欲をあげるため、ボランティア活動、交流活動に積極的に参加させる。	コロナ禍のため今年度は未実施。次年度以降の実施を目指す。	D
(3) 心身に問題を抱えた学生の学生生活をサポートする。	①教育相談室と各チューターの懇談の場を設け、学生の悩み解決に相互協力体制を敷く。	D-18 ① 各学科にて、それぞれの時期で個別相談を開催したり、時には保護者を呼んで三者面談を行ったり、学生ひとりひとりと向き合う時間を設ける。 ② 専門の学園のカウンセラーや外部の組織との協力体制を整備し、学生をサポートしていく。 ③ 教員は、普段の生活から学生の態度や行動を気にかけて、気になる学生がいれば他の学生に配慮しつつ声かけを行う。	各学科の全学生に対して、主に就職を中心に個別面談を行った。 学園の専門のカウンセラーによる相談やカウンセリングは実施できる体制を整えている。 各教員が普段から学生の態度や行動に気をかけるように心がけている。	A
	②発達障がい者に対する接し方を学ぶ外部講師招聘による教員研修を増やす。	D-19 適切な外部講師招聘による教員研修を実施する。	今年度は実施できなかった。	D
	③身体障がい者の校内設備利用の利便性を上げるための教職員研修を増やす。	D-20 校内設備を改善し、利便性の向上を図るとともに専門の外部講師招聘による教員研修を実施する。	今年度は実施できなかった。	D
(4) 正課外活動についての支援。	①独自のクラブ活動や団体参加のクラブ活動の参加に努める。	D-21 今あるクラブ活動についての活動案内の場を適宜設ける。	主に入学時のオリエンテーション時にクラブ活動の紹介を行っている。	B

中期計画		令和4年度 事業計画	令和4年度 事業報告	評価
(5) 学生の修学を促進する取組を行う。	①修学困難な学生を支援するサポート体制を確立する。	D-22 経済的困難による退学者が出ないように、在学生に対して国の修学支援制度の周知、チューターとのコミュニケーション強化などを定期的に行う。	前期、後期のオリエンテーション時に説明をしている。また、学生からの相談があれば、丁寧に対応するようにしている。	A
	②修学支援体制が充実している学校として知名度を上げる。	D-23 授業料等の修学支援に関して、本校では高等教育修学支援制度、教育訓練給付金制度、日本学生支援機構の貸与奨学金等の支援制度が整備されていることを、高校訪問時やオープンキャンパス時に教員や保護者に対して説明を行う。	十分に行っている。	A

IV. 国際化について

1. 国際化に関する中期目標

中期計画		令和4年度 事業計画	令和4年度 事業報告	評価
(1) 留学生の受け入れを行う。	①クラスのコミュニケーションを推進する。	D-24 クラス全体で生活習慣、言語などの相違を理解し、コミュニケーションを図る。	1名の留学生が在籍していたが、前期末に除籍となった。実質的に授業に出ていなかった。	D
	②一人一人の学生に真摯に向き合う。	D-25 留学生の出身国を理解し、意志疎通を図れるよう教員研修を実施する。	1名の留学生が在籍していたが、前期末に除籍となった。実質的に授業に出ていなかった。	D

V. 地域社会連携・貢献について

1. 地域社会連携・貢献に関する中期目標

中期計画		令和4年度 事業計画	令和4年度 事業報告	評価
(1) 地域社会交友を促進する。	①地域のボランティアに積極的に参加する。	D-26 ① ボランティア活動を通して積極的に地域の人とコミュニケーションをとる。	コロナ禍のため、本年度は実施できていない。	D

中期計画		令和4年度 事業計画	令和4年度 事業報告	評価
		② 各自治体が開催するフェスティバル等に積極的に参加する。今年度は、動物愛護フェスティバル、動物愛護キャンペーン等、参加を予定している。	本校は例年積極的に参加しており、主催者側から感謝されることが多い。但し、今年度はコロナ禍のため、学生個人の参加はあるが例年ほど積極的に参加できていない。	C
(2) 関連機関・団体との連携・協力を行う。	①常に時代のニーズに合った職業人を養成する為、情報収集に努める。	D-27 ① 職業安定所、自治体等が開催する企業説明会に積極的に参加し、情報収集に努める。	コロナ禍ではあったが、可能な範囲で参加および情報収集に努めた。	A
		② 職業実践専門課程外部委員及び学校評価委員からの情報収集に努める。	十分に行えている。	A
		③ 卒業生による特別講演や、特別授業を実施する。	卒研発表会時に実施できた。	A

VI. 組織・運営について

1. 組織・運営に関する中期目標

中期計画		令和4年度 事業計画	令和4年度 事業報告	評価
(1) 学校運営・教育方針の周知徹底を図り、全教職員の共有化できる体制づくりを策定する。	①「建学の理念」「専門学校の使命」を捉えた「学校運営」「教育方針」を協議し、流動的な社会情勢に呼応できる学校運営をする。	D-28 ① 教員資質の向上のため、外部団体、研究会等への積極的参加を推進する。 ② 常に組織の改革を実践する。 ③ 問題点があれば早急に改善点を話し合う会議体制を構築する。	コロナ禍のためほぼ参加できていない。 十分には改革できていない。 対面での運営会議、リモート会議を活用して職員会議を通じて問題点を話し合うようにした。	D D B
	②校長を中心とした意思決定会議を明確にし、各組織の長の権限と責任を明確にする。	D-29 ① 新年度最初に作成した組織表に基づいて、運営を実施する。 ② 全教職員が協力し合える体制を強化する。	組織表に基づいて運営できた。 昨年度、今年度はコロナ対応のために授業形態、行事の形態を変更せざるを得ず、その都度全教職員で協力することができた。	A A

中期計画		令和4年度 事業計画	令和4年度 事業報告	評価
(2) 教員の能力開発・評価を行う。	①教員自己点検シートにより、主体的な能力向上を図り、自己目標とその達成度を評価する。	D-30 ① 教員自己点検シートにより、自己目標と達成度を評価する。 ② 教員能力向上につなげるため、校長は点検シートのフィードバックを行う。	事務職員の評価制度と比較して、教員評価は授業アンケートのみである。 授業アンケートに基づいて、学生からの評価が低い教員に対して聞き取り、改善指導を行っている。	C A
	②関係機関と協力のための教員派遣を推進する。	D-31 自己の視野を広げ、柔軟な思考力習得のため、自治体等関係機関の事業に積極的に協力する。	コロナ禍のため外部の事業への参加がほぼできなかった。	D
(3) 教員の人材育成システムを構築する。	①職能団体より情報収集を行い研修先の開拓を図る。	D-32 外部団体のイベント、研究会等に積極的に参加し、学生の研修先の開拓に努める。	コロナ禍のため外部のイベント、研究会等の参加はリモートに限られた。	D
	②教員研修規約に則り、年間教員研修経費の予算を立てて教員派遣を推進する。	D-33 新任教員、中堅教職員を中心に各種研修会に積極的に参加する。	学園内で行われる研修会以外の外部の研修会には参加できなかった。	D

Ⅶ. 内部質保証について

1. 内部質保証に関する中期目標

中期計画		令和4年度 事業計画	令和4年度 事業報告	評価
(1) 内部質保証システムを確立する。	①機関評価並びに分野別評価の実施のため、幹部職員を研修に派遣し、学校評価に対応する。	D-34 ① 全学科を文部科学省職業実践専門課程学科として、適切な外部編成委員及び学校関係者評価委員による各種会議を組織する。	改組が進行中である動物飼育トレーニング学科以外の4学科全てで、年2回の教育課程編成委員会の開催、学校関係者評価委員会を開催できた。	A
		② 関係外部委員による倫理委員会を開催する。	年1回の倫理委員会を開催できた。	A

中期計画		令和4年度 事業計画	令和4年度 事業報告	評価
	②学校自己評価に加え、学校関係者評価を行い、結果の情報公開を履行する。	D-35 学校自己評価及び学校関係者評価を情報公開する。	学校自己評価結果、学校関係者評価の結果をWeb上に公開した。	A
	③運営側と各下部組織の意思疎通を図る。	D-36 ① 学校運営会議を定期開催し、遅滞なく結果を学内組織に周知し、組織の意志疎通を図る。	学校運営会議は必要に応じて開催している。その結果は朝礼、職員会議で周知している。	B
		② 「報告」「連絡」「相談」体制を作り、学内組織を強化する。	これまでも体制づくりを心掛けているが、十分とは言えない。	C
(2) 情報の収集と分析を行う。	①学会、研究会に積極的に参加する。	D-37 最新技術や機器、情報をいち早くカリキュラムに反映させる為、積極的に各種学会、研究会に参加する。	専門学校であるため学会参加は少ないが必要な情報は様々な経路から収集し、カリキュラムに反映させている。	C
	②自治体、団体の会議に参加する。	D-38 自治体主催の意見交換会や団体の会議に積極的に参加し、最新の情報を収集する。	コロナ禍のため、リモートで参加できない会議には参加できていない。	D
	③職業実践専門課程での会議を積極的に活用する。	D-39 カリキュラムの見直しや学生の就職先のバックアップ等ニーズを満たす職業実践専門課程の会議を定期的実施する。	カリキュラムの見直しは行うようにしているが、その他の会議の定期的開催はできていない。	C

Ⅷ. 教育研究環境について

1. 教育研究環境に関する中期目標

中期計画		令和4年度 事業計画	令和4年度 事業報告	評価
(1) 教育環境のチェックにより、安全で快適な教育環境を目指す。	①既存建物の耐震診断を実施し、年次計画を立てて、改修・補修工事等の実施を実現する。	D-40 既存建物の耐震検査を実施し、年次計画を立てる。	数年後の1校舎、2校舎の建て替えに向けて、費用の積み立てを実施している。	A

中期計画		令和4年度 事業計画		令和4年度 事業報告	評価
	②施設・設備、備品の老朽化にともない、最新の設備の導入の整備計画を策定して逐次実施する。	D-41	設備・備品の点検を行い、最新設備導入計画を策定する。	教務システムの導入、ネットワークシステムの更新などの計画を立案している。	A
	③校内禁煙策を協議し、快適でクリーンな校内環境を目指す。	D-42	校内で、喫煙者、非喫煙者の両方の立場を尊重するため全面的な禁煙ではなく、分煙という形で双方ともに快適に学校生活が送れるようスペースの住み分けを行う。	構内に喫煙場所を確保し、分煙を実施している。副流煙、火災についても考慮しながら設置場所を決めている。	A
	④DX推進に取り組み、快適なIT環境を目指す。	D-43	オンライン授業を行う為のインターネット回線容量の増設や学内ネットワークシステムの更新など、DXの基盤となるIT環境の整備計画を立てる。	必要に応じて回線容量を増加させる計画を立案して実施している。	B
(2) 安全衛生管理体制を構築する。	①教職員・学生の安全意識の啓蒙に努め、防災委員会の中に環境アセスメントを導入し、安全衛生管理体制の強化を目指す。	D-44	① 防災訓練の数を増やし、次回への改善点を話し合い、安全に学生を避難させる管理体制を構築する。	コロナ禍のためもあり学生の防災訓練は実施できていない。	D
			② 防災委員会を年に1回以上開催する。	実施できていない。	D
	②ユニバーサルデザインの追求により、全学生及び外来者が利用しやすい施設整備を推進する。	D-45	① 学生や外部利用者が負担に感じることなく使用できるような施設整備を推進する。	校舎が斜面に4棟建設されており、階段で接続されている。エレベーターや空中廊下を設置する必要があり、実施できていない。	D
			② 関係外部団体の利用の推進を図る。	コロナ禍のため現在は積極的に推進していない。	D

Ⅸ. 運営・財政基盤について

1. 運営・財政基盤に関する中期目標

中期計画		令和4年度 事業計画	令和4年度 事業報告	評価
(1) 教育の基盤は安定した財務状況に起因することを校内統一見解として、各自が財務安定化に向けて目標を持つ。	①人件費率の安定化(60%)を図る。	D-46 60%に抑えた人件費率を維持しつつ、適切な教職員配置に努める。	人件費率は目標値以内に収まった。	A
	②適切な教育研究費になるように努め、在校生数に比例した経費の予算組を立てる。	D-47 安定した入学者を確保し、学校運営・財政基盤を確立させ、適切な教育研究費にする。	5 学科全体の入学定員 220 名を充足できた。また、適切な教育研究費にすることができた。	A
	③収支の改善を実施する。	D-48 必要なもの、不要なものを見分け、適切な予算執行に努める。	経常収支差額が 100,000,000 円の黒字となった。引き続き、適切な予算執行に努める。	A
(2) 広報・ブランディング戦略	①地域の自治体、団体の動向を的確に把握する。	D-49 地域の自治体や団体のイベントに参加し、連携交流を行うことで信頼関係を結び、広報活動につなげる。	コロナの影響で地域の自治体のイベントが実施されず、参加できなかった。	D

※評価欄は各事業の達成度及び成果を自己評価したもの。

S : 目標以上の成果 (105%~) A : 目標を達成 (100~104%) B : 目標をほぼ達成 (90~99%)
 C : 課題が残る (70~89%) D : 未達・未実施 (~70%)

主な行事予定	
4月8日	入学式・オリエンテーション
4月11日	オリエンテーション
4月12日	前期授業開始
6月15日	球技大会
8月2日~8月8日	前期末試験
8月9日~9月13日	夏季休暇
10月1日	後期授業開始(昼間部は10月3日から)
10月29日・10月30日	RiSEN祭
12月23日~1月9日	冬季休暇
1月31日~2月6日	後期末試験
3月20日	卒業式

学生数・教職員数

■在籍学生数

(令和4年5月1日現在)

課程・学科名		入学定員	入学者数	収容定員	在学者数
工業 専門課程	建築学科(昼間部)	40	53	80	98
	建築学科(夜間部)	20	19	40	34
	福祉住環境デザイン学科	(募集停止)	—	—	—
	計	60	72	120	132
商業実務 専門課程	映像情報学科	(募集停止)	—	—	—
	計	(募集停止)	0	0	0
文化・教養 専門課程	愛玩動物看護学科	40	58	120	120
	看護医療コース(2年制)	(募集停止)	—	—	—
	高度看護医療・臨床検査コース(3年制)	(募集停止)	—	—	—
	トリミング学科	40	29	80	52
	動物飼育トレーニング学科	40	42	80	71
	アクアリウム学科	40	37	80	72
	計	160	166	360	315
合計		220	238	480	447
専攻科	建築学科専攻科	15	10	15	10
研究科	動物系総合学科研究科	15	9	15	9

(単位：人)

■卒業生数等一覧

(令和4年度)

区分	修了者・ 卒業者	満期退学	就職希望者 A	就職者 B	就職率 B/A	進学者	退学者・ 除籍者	休学者	留年者 ※
岡山理科大学専門学校	196	—	147	143	97%	24	27	1	1

※修業年限を超えて在籍している学生数 (令和5年4月1日現在)

主な就職先	(株)安藤・間, (株)大本組, 笠岡市役所, 倉敷動物医療センター・アイビー動物クリニック, 山陽動物医療センター, やさか動物病院, ペットプラス岡山イオン店, ペットハウス ハロー, (株)池田動物園, ノーザンファーム, 玉野海洋博物館, 秀長水産(株), 自衛隊
-------	--

■教職員数

(令和4年5月1日現在)

校長	副校長	教員	教員 計	事務職員
1	0	9	10	8

(単位：人)

財務関係

■事業活動収支

(単位：千円)

科目		年度	令和4年度 予算額	令和4年度 決算額
教育活動 収支	収入	学生生徒等納付金	377,562	385,585
		経常費等補助金	32,160	33,500
		その他収入	30,416	23,575
		計	440,138	442,660
	支出	人件費	200,812	188,346
教育研究経費		108,078	103,517	
管理経費		29,784	25,551	
その他支出		0	0	
教育活動収支差額			101,464	125,246
教 活 外	収入	受取利息等	10	1
	支出	借入金利息等	136	136
	教育活動外収支差額		△ 126	△ 135
経常収支差額			101,338	125,111
特 別	収入	資産売却差額等	0	0
	支出	資産処分差額等	0	94
	特別収支差額		0	△ 94
基本金組入前収支差額			101,338	125,017
基本金組入額合計			△ 33,524	△ 31,379
当年度収支差額			67,814	93,639

■財務改善に向けた取組

全5学科の入学定員220名を充足し、経常収支差額も目標値を達成できた。今後とも定員の充足、経費削減を継続的に行っていく。

■施設設備整備報告（抜粋）

入学希望者増加に伴い、利用教室拡充のため教室改修工事を行った。また、実習場にて利用しやすい環境とするための工事を行った。

主な施設関係

(単位：千円)

事業名	金額
教室改修工事	2,398
ドッグランテント取付工事	4,400
ドッグランカーポート屋根取付工事	2,805